

平家物語の世界に浸ろう

— 人物に着目して「盛者必衰の理」について考える —

上越教育大学附属中学校 池村 和重

この実践は、平成22年度の9月から10月にかけて実践したものである。

(1) 単元について

本単元では、「作者の思いや当時の世相が反映された古典作品の特色」を念頭におきながら作品を読み進め、群読に取り組むことで、「盛者必衰の理」の見方や考え方を深めたり広げたりし、言葉に関する感性や情緒を高め、古典作品に親しむことができることをねらいとする。

2年生の「国語科」では、「古典の読解の基本」として、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す原則」「現代文にない言葉や現代と違う意味で使われている言葉を覚えること」などの古典の原文を読むための基本的な事柄について学習した。また、古典作品の特色がよく表れている部分に着目し、『平家物語』の「盛者必衰の理」に注目した。しかし、古典作品を古文のまま一部読むだけでは、古典作品の特色を確認するだけで精一杯であり、実感するところまではいかない。

そこで、古典作品の世界に浸るため、古文を読むことに固執せず、現代語訳をもとに作品全体を通して読む。その際、登場人物に着目し、読み進めていく。『平家物語』は、軍記物と呼ばれる戦いを基にした文学である。その中で平家や源氏の多くの登場人物の盛者必衰が描かれており、登場人物も魅力的に描かれている。人物に着目して読むことで作品のもつ特色を実感できるようになると考える。

本単元では、平家物語を現代文で、自分が興味をもった登場人物に着目しながら読み進め、その登場人物の登場場面の中で『平家物語』の特色である「盛者必衰の理」がよく描かれている場面を見つける。また、古文に戻り読み味わうことや同じ場面に着目した仲間と意見を交流すること、登場人物の心情を表現することで『平家物語』の世界を探究する。そして、他の場面を選んだ仲間に対して分かりやすく伝えることで、『平家物語』の特色をより広い場面から実感することにつながることを期待する。

(2) はぐくみたい意欲、自律、学びの質

当校では、意欲をもって、自ら学習を進め（自律）、学びの質の向上を図ることで、自立した生徒を育てることを目指している。

意欲 進んで仲間と考えを交流したり興味・関心をもって文章を読んだりしようとする
こと。また、進んで作品全体を読もうとすること。

自律 今までの学習で得た知識を活用し、作品の特色が表れている場面を選んだり、その
場面の内容を分かりやすく仲間に伝えることを工夫したりしながら、自主的に学習を進
めること。

学びの質 登場人物の言動を追いながら読むことで、平家物語の「盛者必衰の理」が表れ
ている部分を見つけ、古文に戻り、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、読
み手としてのものの見方や考え方を更に深めていくこと。

(3) 具体的な手立て

当校では、自立した生徒を育てるために、教材と学習過程の工夫を図っている。

《教材の工夫》 **教**：教材の工夫 **過**：学習過程の工夫 **他**：その他の工夫

教 「平家物語の特色」を念頭に置き、興味・関心をもって平家物語を読み味わうことが
できるよう、現代文で書かれた平家物語を教材として用いる。

《学習過程の工夫》

過 生徒の興味・関心を引き出すよう、興味・関心をもった登場人物・作品の特色が表れて
いる場面を選ぶ場を設定する。

過 多様な価値観を引き出すことができるよう、意見交流を行う場を設定する。

過 自ら計画を立てながら、学習に取り組み、考えを深めていけるよう、学習形態を工夫する。

《その他の工夫》

他 群読の様子を後で振り返ることができるよう、群読をビデオで撮影する。

(4) 学習の流れ (全16時間)

1) 平家物語を現代文で全部読もう！ (5時間)

前時までには、『枕草子』と『徒然草』の冒頭部分、「仁和寺にある法師」と『平家物
語』の「扇的」の場面を13時間で学習した（以下、「本単元に入る前の学習」とす
る）。生徒は、「枕草子」の冒頭部分の暗唱をして古文に慣れてから「古文の基本的な
読み方」を確認した。

【確認した「古文の基本的な読み方」】

- 1 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す原則
- 2 現代文にない言葉や現代と違う意味で使われている言葉を覚えること
- 3 主語や助詞の省略
- 4 代表的な助詞・助動詞の意味

本単元に入る前の学習では、古文に慣れることを目標に、暗唱や全体の読みの確認、
一人読み、ペア読みなどを行った。生徒は、これらの学習を通して、古文に興味をも
つようになった。音読を中心に学習したことで古文に対する抵抗感が少なくなったこ
とは、本単元で『平家物語』を学習する上で基礎の学習として有効であった。

【古文の学習に入る前のA男の記述】

○ 昨年は、あまり古文に関心がわかかなかったので、今回は関心をもちながら、授業に取り組みたいです。

【本単元に入る前の学習を終えた後のA男の記述】

○ 『平家物語』から古文の深さやおもしろさが分かりました。また、今とは全然違う言葉が入っていたりして、とても理解が難しかったけれど、音読を繰り返していくごとに理解が深まっていきました。冒頭の文では、その物語で何を語りたいのかを表しているのだと思いました。さらに、このような深い物語が鎌倉時代からあると聞いてとても不思議に思い、日本の文化について関心をもてるようになりました。まだ古文に慣れ切れていないところもありますが、しっかりと古文にかかわっていきたいと思います。そして、そのころの時代の人たちが、何を言いたかったのか、そのときの心境はどうだったのかなどのことまで考え、自分なりに見つけ出せるようになっていきたいです。

本単元の学習の1時間目では、単元の目標やねらい、学習の流れについてガイダンスが行われた。ガイダンスの中では、本単元に入る前に学習した『平家物語』の冒頭部分に出てきた「盛者必衰の理」に着目をして『平家物語』全体を読み進めていくことと、学級全員で『平家物語』の群読に取り組み、ビデオ撮影をして鑑賞することが説明された。

【生徒の振り返りの記述から】

- 先生の話真剣に聞いて、これからやる学習の趣旨を考えることができました。群読を一生懸命がんばって工夫したいと思います。(B子)
- 群読にいくまでの授業の流れや群読の例が分かった。(C子)

2時間目と3時間目と家庭学習も利用して、『平家物語を読む』(岩波ジュニア新書)を読んだ。この本は、『平家物語』に出てくる主要な10人の人物を軸に物語全体の特徴が分かるように構成されており、「国語科」で『平家物語』の冒頭部分と「扇的」の場面を学習していたこともあり、ほとんどの生徒は、抵抗なく読み進めた。

4時間目は、10人の中から気に入った登場人物を選び、その理由とその人物の「盛」の場面と「衰」の場面をまとめた。理由の部分をもとめ、自分が選んだ人物の物語全体の中に占める役割を考えながら選んだ。また、「盛」の場面と「衰」の場面をまとめ、「衰」の場面があまり出ていないことから人物を選び直す生徒もいた。

【生徒の振り返りの記述から】

- 自分なりに好きな登場人物を選び、「盛」と「衰」の場面を選ぶことができた。また、その世界観に興味をもち、細かいところまで読むことができた。家でさらに理解を深められるようにしたい。(D子)

5時間目は、群読をする際、学級として取り上げる登場人物を5人に絞った。同じ人物を選んだ者同士がグループになり、選んだ理由が一番よく書けている者が代表となった。グループで選んだ人物がなぜ『平家物語』の群読に欠かせないかを発表し合い、

『平家物語』の中でそれぞれの登場人物がどのような位置を占めているかを比較検討した。登場人物一人当たりを担当する人数が多くなり、群読をつくり上げる際、迫力を出すということと、発表時間が長くなりすぎないようにすることを考えると、人数を絞ることは欠かせない。また、人物を絞り込むことで、自分が選んだ人物の『平家物語』の中で役割を考え、内容を吟味することにつながった。

【学級で絞り込んだ登場人物と主な理由】

- 平清盛……この物語の主人公で、清盛のことを調べれば、この物語のだいたいのことは分かるのではないかと考えたから。
- 祇王・仏…平清盛に人生を狂わされた女性たちだから。
- 木曾義仲…平家を滅ぼすために重要な人物にもかかわらず、同じ源氏に倒されてしまうから。
- 文覚……いつも時の権力者に挑みかかっているから。
- 源義経……頼朝に対する忠誠心がしっかりしていて、「盛」と「衰」の場面の差がはっきりしているから。

2) 気に入った登場人物ついてまとめよう！（3時間）

6時間目の授業は、絞った5人以外の人物を選んだ生徒は、人物を選び直してから、そのグループの代表を選んだ。

7時間目と8時間目の授業では、グループの中で一番よくできている人物まとめのワークシートを選び、仲間の意見や話し合っただけ気付いたことなどを書き足し、グループで読みを共有した。

【E子のワークシートの記述】

The image shows two pages of handwritten Japanese text, likely student work sheets. The left page is a table with two columns and two rows. The right page is a single column of text. There are some labels and boxes on the right side of the right page, including a box with the text '祇王・仏' and another box with '源義経'.

3) 登場人物の思いがよく表れるように古文を群読しよう！(8時間)

9時間目は、選んだ登場人物の「盛者必衰の理」が最もよく表れている場面を選んだ。この部分を軸に群読する場面を選んだ。はじめ、ほとんどの生徒は、「衰」の場面の中から選ぶようにしており、まだ選んだ場面が広く、登場人物の心情を深く読み取ることができなかったため、感情の高まりの頂点を探すことにした。

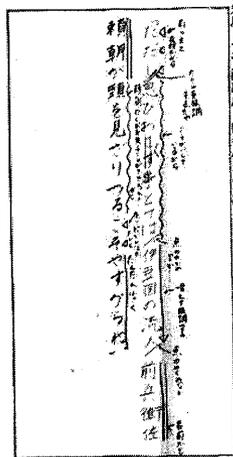
10時間目と11時間目では、9時間目に選んだ「盛者必衰の理」が最もよく表れている場面を吟味し、その周辺を現代語訳で読み、選んだ場面の原文の仮名遣いなどを確認した。

【10時間目に生徒が選んだ「盛者必衰の理」が最もよく表れている場面

- 平清盛……「ただし思ひおく事とは、伊豆国の流人、前兵衛佐頼朝が頸を見ざりつるこそやすからね。」
- 祇王・仏…「親の命をそむかじと、つらき道におもむいて、二度うきめを見つることの心うさよ。かくて此世にあるならば、又うきめを見むずらん。今はただ身を投げむと思ふなり。」
- 木曾義仲…「日來はなにともおほえぬ鎧が今日は重うなつたるぞや。」
- 文覚……文覚京を出るとて
「是程老の波に望んで、今日あすとも知らぬ身を、たとひ勸勤なりとも、都のかたほりにはおき給はで、隠岐国までながさるる毬杖冠者こそやすからね。」
- 源義経……「同八日は頼朝卿の申状によって義経追討の院宣を下さる。朝にかはり夕に交する世間の不定こそ哀れなり。」

12時間目は、再度、「盛者必衰の理」が最もよく表れている場面をグループで確認してから、前時に選んだ場面の原文の読み方を工夫した。読み方を表す記号を付け、グループごとに音読の練習をした。

【平清盛を選んだグループのワークシート】



○グループで決めた「盛者必衰の理」が最もよく表れている表現

二年生国語表現科ワークシート
平家物語の世界に浸ろう！人物に着目して「盛者必衰の理」について考える！

平清盛グループ

○「盛者必衰の理」が最もよく表れている表現をどう読むか工夫する記号を付けよう。
※空白部分に、記号を付けた理由を書こう。

【生徒の振り返りから】

○1回目は、練習のとき、そろわなかったところが、やはり本番でもそろわなくて、もう一度話し合いをしてうまくそろうように工夫したい。(F子)

15時間目は、多目的室で群読の発表を行った。学級全体で合わせるのが2回目だったため、1回目の反省点を生かして読もうとするグループが多く見られた。どのグループも最後まで緊張を切らさずに読み通していた。

16時間目では、前時に撮影した群読のビデオを見て、群読の本番を含めて今までの振り返りを行った。



写真一 国2 群読発表の様子

【生徒の振り返りから】

○2回やったので、回を重ねることで自分的にはうまくなっていくなあと感じた。他のグループの群読も聞くことで、どんどんやる気がわいてきた。(C子)

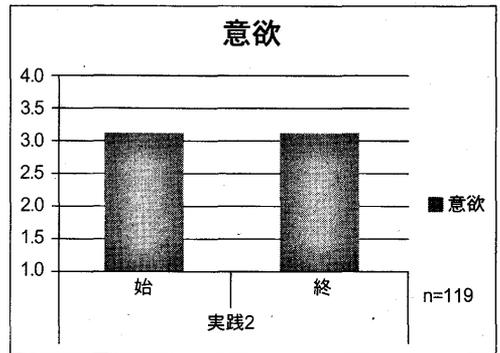
(5) 考察

本單元における「意欲、自律、学びの質」のはぐくみについて考察する。

1) 意欲のはぐくみ

進んで仲間と考えを交流したり興味・関心をもって文章を読んだりしようとするや進んで作品全体を読もうとするは、十分にはぐくまれたと考えられる。

これは、学習後の振り返りにおける自己評価の数値やワークシートの記述から判断した。具体的には、実践後に実施した生徒の振り返りでは、図一 国1のように「よくできた」と回答していた生徒は、4ポイント中、平均3.4ポイントであった。実践前の生徒の振り返りにおける意欲の平均値の3.1ポイントと比較すると、数値が0.3ポイント上昇していることが分かる。また、次に示すB子の振り返りの記述からも、生徒が單元では



図一 国1 本単元の実践前と実践後の振り返りにおける意欲の平均値 (最大値4.0)

ぐくみたい意欲を意識し、その達成に向けて意欲的に実践できたことが分かる。B子は、学級全体で群読を作り上げる活動だけでなく、3年生で行うミュージカルづくりを想起し、ミュージカルづくりへの意欲を高めていった。

【B子の「台本作り」における振り返り】

○どのように読んだら、平清盛の気持ちが伝わるかを考えて、活発に意見を言うことができたのでよかったです。群読をするときに読み方も気を付けることで「盛者必衰の理」が表れるようなシナリオをつくることができました。

【B子の「群読本番」における振り返り】

○1回目より2回目の方が緊張もとけたのか、スラスラと読めたし、声のボリュームも上がりました。今までの練習が十二分に出せたのではないかと思います。でも、なかなか感情的に読めなかったので、ミュージカルへの課題となりました。

【B子の単元終了後の振り返り】

○今回の「平家物語の世界に浸ろう」では、いろいろなことを学ぶことができました。特に、群読をするときは、なかなか合わなかったり、声が小さくて聞こえなかったりして苦悩しました。グループがバラバラになってしまうこともありました。でも、そんな苦悩を乗り越えて、成功したときはとてもうれしかったです。そう考えてみると、来年のミュージカルは、今回の群読で学んだことを生かしてよいミュージカルをつくりたいです。今回は仲間と協力して頑張るとつらいこともあるけれど、楽しいこともたくさんあることを学べてとてもよかったですと思いました。とてもよい経験ができました。

これらのことから、教材の手立てとして講じた『平家物語を読む』を教材として取り上げたことや、学習過程の工夫として講じたグループごとの意見交流の場を設けたことや、学級全体で群読を作り上げる活動を行ったことは生徒の意欲のはぐくみに有効であったと考える。

2) 自律のはぐくみ

今までの学習で得た知識を活用し、作品の特色が表れている場面を選んだり、その場面の内容を分かりやすく仲間に伝えることを工夫したりしながら、自主的に学習を進めるは、十分にはぐくまれたと考えられる。

これは、学習後の振り返りにおける自己評価の数値やワークシートの記述から判断した。具体的には、実践後に実施した生徒の振り返りにおいて、図-国2のように「よくできた」と回答した生徒の平均は3.3ポイン

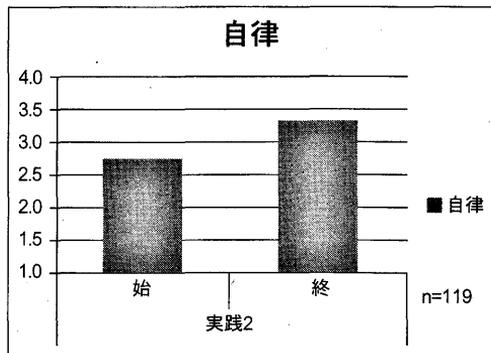


図-国2 本単元の実践前と実践後の振り返りにおける自律の平均値 (最大値4.0)

トであった。実践前の生徒の振返りににおける自律の平均値の2.7ポイントと比較すると、数値が0.6ポイント上昇していることが分かる。また、次に示すF子やG子の記述を見ても、今まで作品の特色が表れている場面を選んだり、その場面の内容を分かりやすく仲間に伝えることを工夫しながら、自主的に学習を進めたことが分かる。

【F子の「群読の個人練習」における振返り】

○係り結びの法則などをもとにどのように読めばいいのか、また、どのくらい間をおけばいいのかをしっかりと発言できたのでよかった。

【G子の「群読の個人練習」における振返り】

○家ででの練習で、声を遠くへとばすように、大きい声で読むことを意識しました。また、読むときに早くならないように気を付けました。

これは、ガイダンスの場を設定し、生徒に学習の流れを明示したことで、生徒が見通しをもって学習に取り組めた結果と考えられる。また、グループの意見交流や全体の意見交流を通して、多様な価値観や情報に触れ、疑問や新しい視点を持ち、それを基に追究していった結果と考えられる。

これらのことから、学習過程の工夫として講じたグループ活動による意見交流や全体発表の場を設定したことは生徒の意欲のはぐくみに有効であったと考える。

しかしながら、追究が広がったり深まったりするにつれ、授業で設定した場だけでは、追究の目的を十分に達成できないでいる生徒も見られた。

3) 学びの質のはぐくみ

登場人物の言動を追いながら読むことで、平家物語の「盛者必衰の理」が表れている部分を見つけ、古文に戻り、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、読み手としてのものの見方や考え方を更に深めていくは、十分にはぐくまれたと考えられる。

これは、学習後の振返りににおける自己評価の数値やワークシートの記述から判断した。具体的には、実践後に実施した生徒の振返りにおいて、図-国3のように「よくできた」と回答した生徒の平均は3.8ポイントであった。実践前の生徒の振返りににおける自律の平均値の3.2ポイントと比較すると、数値が0.6ポイント上昇していることが分かる。また、次に示す単元終了後のC子の振返りの記述を見ても、古文に戻り、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、読み手としてのものの見方や考え方を

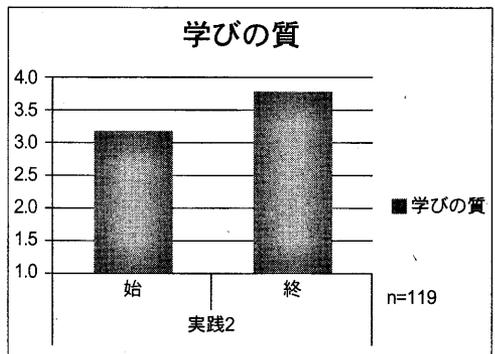


図-国3 本単元の実践前と実践後の振返りににおける学びの質の平均値 (最大値4.0)

更に深めていったことが分かる。

【C子の単元終了後の振り返り】

○ 祇王の気持ちを考えたり、シナリオ原案を一人でつくってみて、『平家物語』をよく理解することができた。今回の学習を終え、私には、「古文を読み進める力」と「登場人物の行動から感情を読み取り、文にまとめる力」「群読をする力」がついたと感じた。先生から配られた本を何度も読むことで、話をよく理解できた。原案をつくるのは、難しかったけれど、まとめる力をつけることができた。音読はしたことはあったが、群読はしたことがなくてとまどいもあったが、みんなで声をそろえて読むことで、文に表情がついていくのおもしろいなあと感じた。長い時間、古文をやることで、古文は深くておもしろいと感じることができた。

これらのことから、教材の工夫として講じた『平家物語を読む』を教材として取り上げ、全文を読むことや、学習過程の工夫として講じたグループ活動による意見交流を行うことは、「盛者必衰の理」に対する理解や文章に表れている多様な価値観に触れて読み手としてのものの見方や考え方を更に深めていくという学びの質はぐくみに有効であったと考える。

以上のように、追求の場の設定など教師が改善を図るべき課題はあるものの、単元の学びを通して、「はぐくみたい意欲、自律、学びの質」が達成できたと判断した。